

グループ紹介

水彩画を楽しむ会



「水彩画を楽しむ会」は、平成13年（2001年）11月に養精地区公民館で水彩画の講座を受講し、修了した13人で発足した同好会です。決まった指導者はいませんが、自分以外は皆先生だと思ひ、お互いに評し合っながら楽しみながら拙作琢磨しています。

以前はグループで、万博公園や花博記念公園鶴見緑地、大山崎山荘、茨木市内では若園公園バラ園などへもスケッチに行きましたが、最近では、ほとんど各自で好きな場所へ出向いてスケッチをしています。

スケッチしたものを持ち帰り、風景を思い出しながら線を入れたり色づけをしたりして仕上げている作業はいつもながら楽しいものです。

会員は、美術展に入選するような絵を描く人や描き始めて間もない人などさまざまですが、上手、下手は関係ありません。夢中になって楽しく描くことが大切なのです。

毎月第1・3木曜日の午前9時から正午まで生涯学習センター3階の一室で、会員の親睦もかねながら和やかに水彩画を描いています。

興味のある方はぜひ一度見学にお越しください。



連絡先 戸伏 阪美 626-3916

茨木男声合唱団



私たちは、茨木市に唯一の男声合唱団として、新世紀の幕開けと共に誕生し、今年で7年目を迎えます。

20世紀最後を飾る茨木市音楽芸術協会主催の「こうもり」公演でお世話になった先生との出会いが契機となり、翌春の茨木市合唱連盟25周年記念の「メサイア」公演を機に平成13年（2001年）4月に旗揚げをしました。

練習は東地区公民館で月3~4回、日曜日の夕方から2時間行っています。発声訓練に重点を置きながら、現役ソリストでご活躍の気鋭の指揮者とアイドルの若い女性ピアニストの先生からご指導をいただいています。団員数は29人。平均年齢66歳ながら和気あいあいの雰囲気の中、年齢を感じさせない情熱と意気込みは盛んです。

これまで、日本歌曲、民謡、ポップス、アニメ曲などいろいろなジャンルの曲に挑戦してきましたが、年齢の割に歌声が若々しいとおおむね好評です。

恒例の関西男声合唱祭や市民音楽会には毎年出演しています。今年は、大阪モノレール沿線合唱フェスティバルや国際交流のつどいにも初めて参加しました。

3年前、生涯学習センターきらめきホールのこけら落とし公演のオペラ「魔笛」の舞台で、プロ歌手と共演した経験も忘れ難い思い出となりました。

昨年5月には、念願の5周年記念演奏会を果すことができましたが、今後も、高齢化の問題を抱えつつ、歌唱力の向上に一層精進したいと思います。

皆さんも日頃のストレスを発散し、歌う喜びと感動、男声の重厚な響きとハーモニーの世界に浸ってみませんか。関心と意欲のある方はぜひご連絡ください。

連絡先 寺澤 唯夫 634-9218

市民インタビュー

この人に会いたくて



第32回

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見てくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。

癒しの絵画を描きつづける

いわもと ほうさい
岩本 峯齊さん

アートディレクターとして勤務した後、絵画の創作活動を始める。墨を主体とした作品を自ら「墨象画」と名付ける。多くの人に安らぎを与えられたらと、全国各地で絵画展を開催。また、チャリティ絵画展にも出品している。

岩本さんの作品にはフクロウが数多く登場しますが、フクロウを描くきっかけは何ですか。

私は、小学生の頃、大阪府能勢町に疎開していました。約2年間の疎開でしたが、何十年も経ってふともう一度その場所に行ってみたいと思うようになりました。さっそく能勢町へ出向き、思い出をたどりながら夕暮れの能勢の山を歩いていたときのこと。バタバタと1羽のフクロウが飛んできて、私のすぐ近くの枝に止まったのです。驚きのあまり身構えましたが、その可愛らしさに思わず笑みがこぼれました。フクロウはほんの2・3分で飛んでいきました。

それから2か月後、フクロウを描いてほしいとの制作依頼が来ました。すぐに、能勢の山で出会った、丸い目でじっとこちらを見たフクロウを思い出しました。何か不思議な縁を感じた私は、受けたイメージのままを描きました。幸い、そのフクロウは好評で、それ以来フクロウを描き続けています。

ご自身が「墨象画」と名付けられている絵について教えてください。

私の絵の描き方は、墨を主体に写実的ではなく思いつゝまに筆を運びます。これを私は「墨象画」と呼んでいます。以前は色を最小限に抑えていましたが、フクロウの絵を描くようになってから色を増やすようになりました。絵がぐっと明るくなり、見に来られる方にも喜んでいただいています。

画材としてさまざまな和紙をお使いだとか。

いろいろな方からさまざまな和紙を紹介していただきます。高知や熊本、出雲地方の和紙も使わせていただきました。全般に和紙は色がのりやすく、発色もきれいで、にじみ具合に何ともいえない風合いが出ます。このように、さまざまな土地で独自に作られた和紙に出会えたことも、私の絵画の世界が広がったことの一つだと思っています。

作品には円相が使われていますが何か意味があるのですか。

円相は、生き物、自然などこの世のすべてを、言い換えれば宇宙そのものを表しているということだそうです。

が、私は心の中にも宇宙があるととらえて、それを制作の基本としています。

描かれているお地蔵さまや観音さまの左右の肩の長さが違うのはどうしてでしょう。

あまり完璧に描きたくないというか、顔の中に少しアンバランスの部分を残しておきたいのです。後は、ご覧になる方の想像力におまかせしますが、やさしさや温かさが顔から感じられると思うのです。

全国で絵画展をされているそうですね。

たくさんの方で絵画展を開き、多くの方と出会うことができました。それが私の財産ですね。作品の感想を手紙に書いて送ってくださる方もいます。また、新聞社が主催するチャリティ絵画展などにも出品しています。その収益金は、高齢者の方たちが使用する車いすの購入などに使われています。

作品を通して伝えたいことはありますか。また、今後の目標を教えてください。

絵を観てそれぞれに感じていただければそれでいいと思います。私の絵の題材は、フクロウのほか、お地蔵さま、観音さま、達磨、カメなどですが、それらの絵といっしょに短い言葉も添えて、メッセージを出させてもらっています。

これからも制作活動に励んで、全国で絵画展を開きたいと思っています。そして、一人でも多くの方に観ていただき、安らぎを感じてもらえたらとてもうれしいです。



岩本さんの作品